

科学技術・学術審議会学術分科会 研究費部会（第12期第3回）議事次第

令和5年8月2日（火）
10:00～11:00

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 科研費の改善・充実にに向けた当面の取組事項について（案）
- (2) その他

3. 閉 会

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究費部会（第12期第3回）資料

（資料1） 科研費制度の現状等について

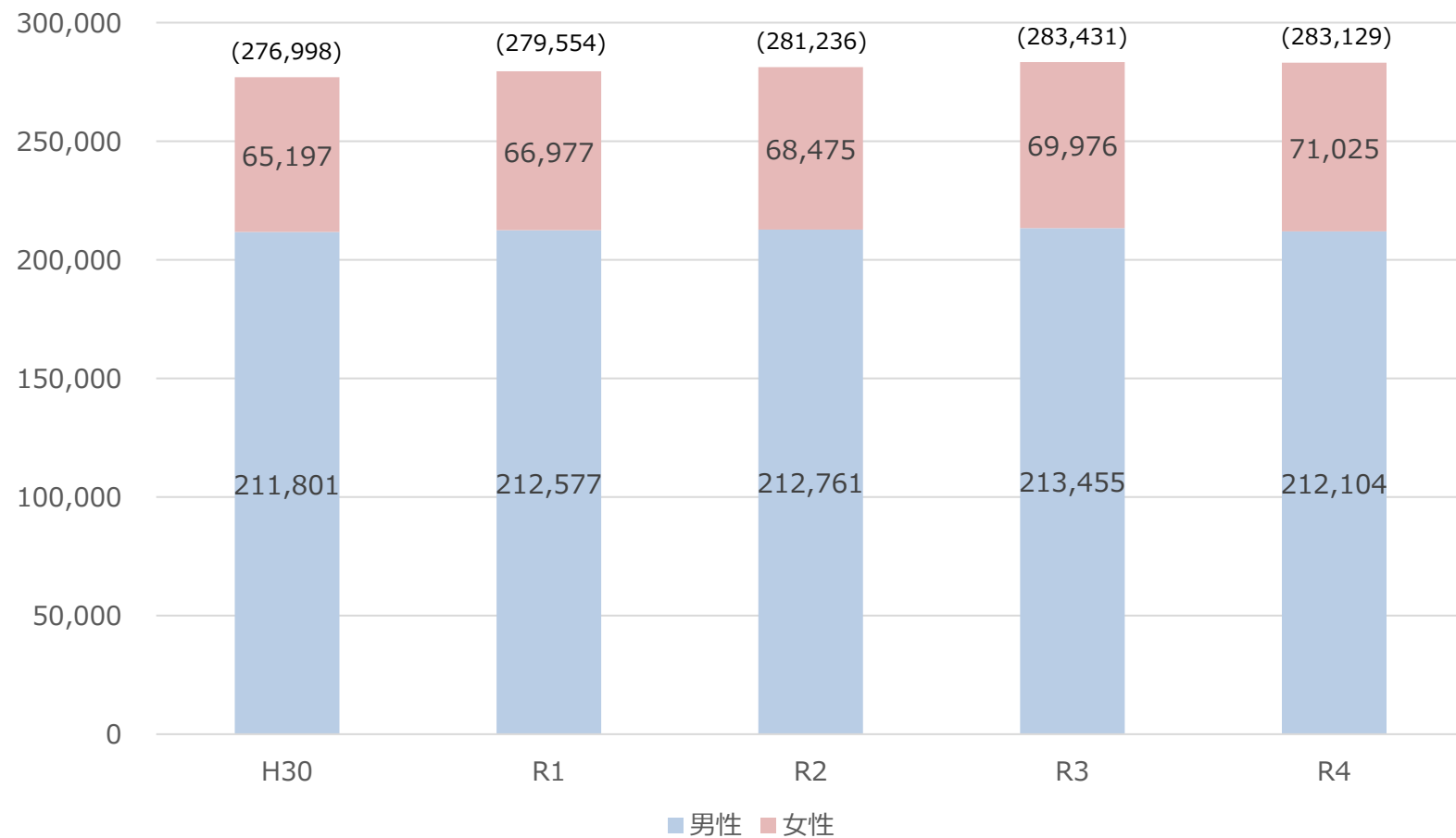
（資料2） 科研費の改善・充実に向けた当面の取組事項について（案）

- 産休や育休が繰越事由にあらず、困っている人がいるのではないか。育児で研究に遅れが生じるということはあるが、今後、そういった人に向けて、未就学児の養育期間を配慮した制度改善や基金化などが必要ではないか。
- 中長期的な人口変動を踏まえると、女性研究者に加え、外国人研究者という多様性の観点も重要ではないか。また、評価者のダイバーシティも合わせて重要である。
- 分野融合的な研究の場合、審査区分が細かいため、分野外の人が審査委員にならざるを得ない状況も出てくるのではないか。
- 基盤（S）に応募する研究者は日本を代表する人が多いと思われるが、その8~9割が採択されないのは日本の競争力の観点から問題ではないか。それをレスキューする形で基盤（A）の重複応募があると思うが、結果として基盤（A）だけ応募している人の採択率は厳しくなっているのではないか。
- 日本の場合は、例えば、基盤（A）が終わった後に、次また基盤（A）を出すか、基盤（B）に変えるのかなど、下手すれば落としてしまって、研究が継続できなくなってしまう不安定な面があり、研究者は困っているのではないか。アメリカの生命系のR01のように、複数の課題を申し込むことができ、研究費を長期的に継続できるシステムはどうか。
- 諸外国の研究開発費の政府負担割合を鑑みると、科研費の予算規模も抜本的に増加させないといけない時期ではないか。また、その過程としては、デュアルサポートの肩代わりではなく、競争性を踏まえた研究種目の枠組みの再設定が必要ではないか。

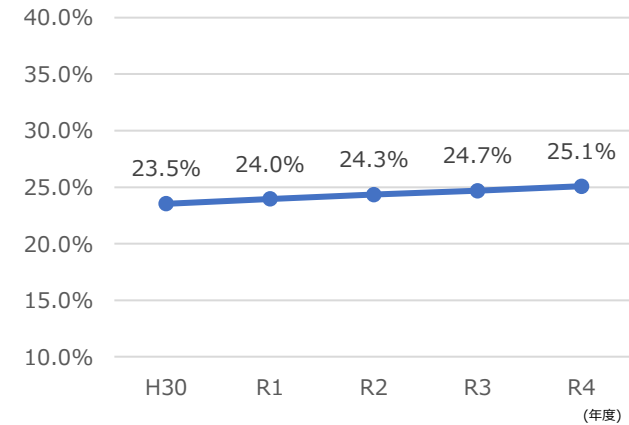
科研費の男女別応募資格者数の推移

○科研費の応募資格者のうち、女性の割合は約25%であり、年々増加傾向。

科研費の男女別応募資格者数の推移



科研費の応募資格者における女性割合

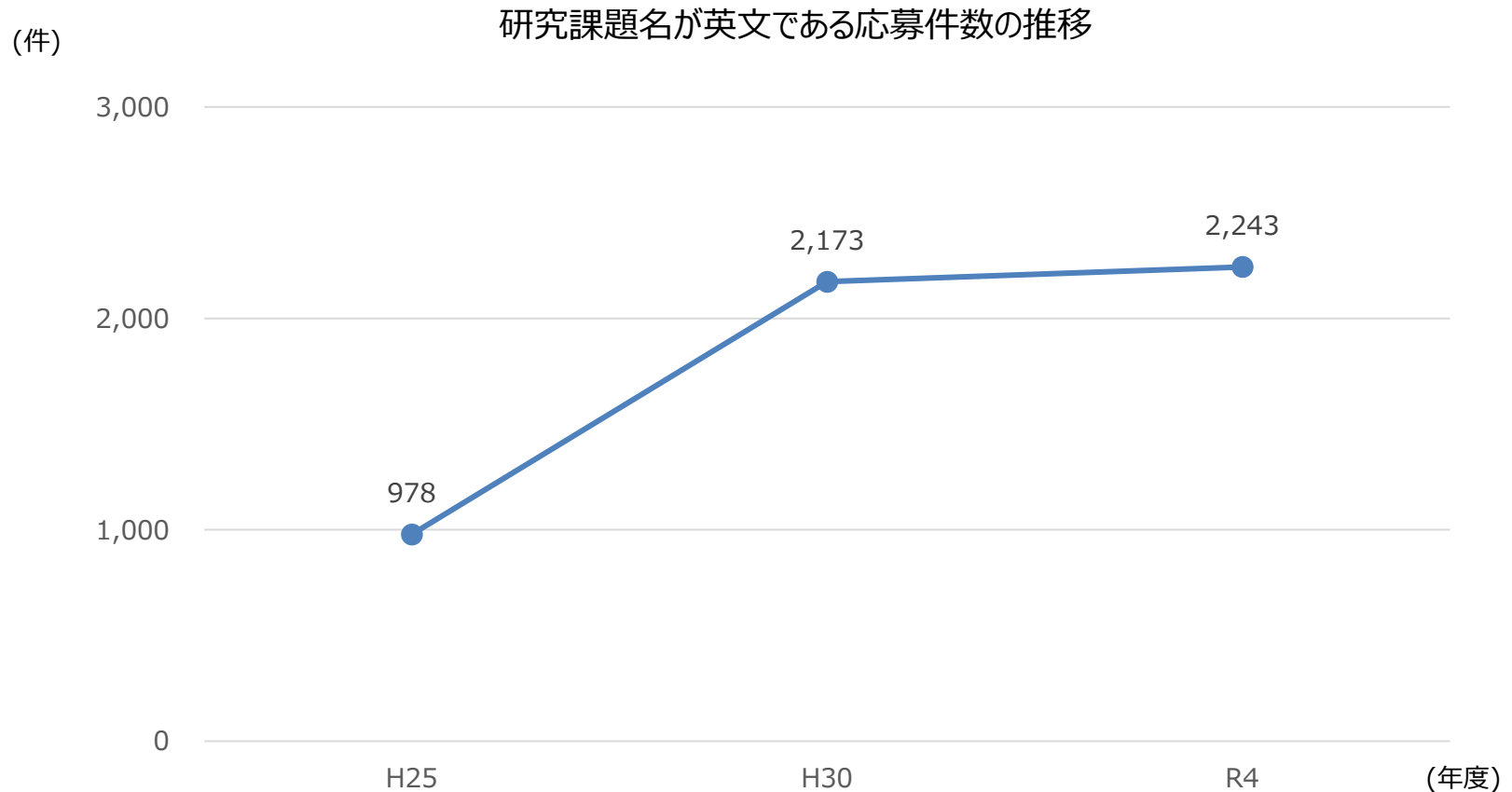


※公募年度、実数ベースで整理。

[出典：文部科学省調べ]

研究課題名が英文である応募件数の推移

○ 研究課題名が英文である応募件数は、10年前に比べ約2倍に増加しており、令和4年度では、全体の約2.6%を占めている（2,243／87,158件）。

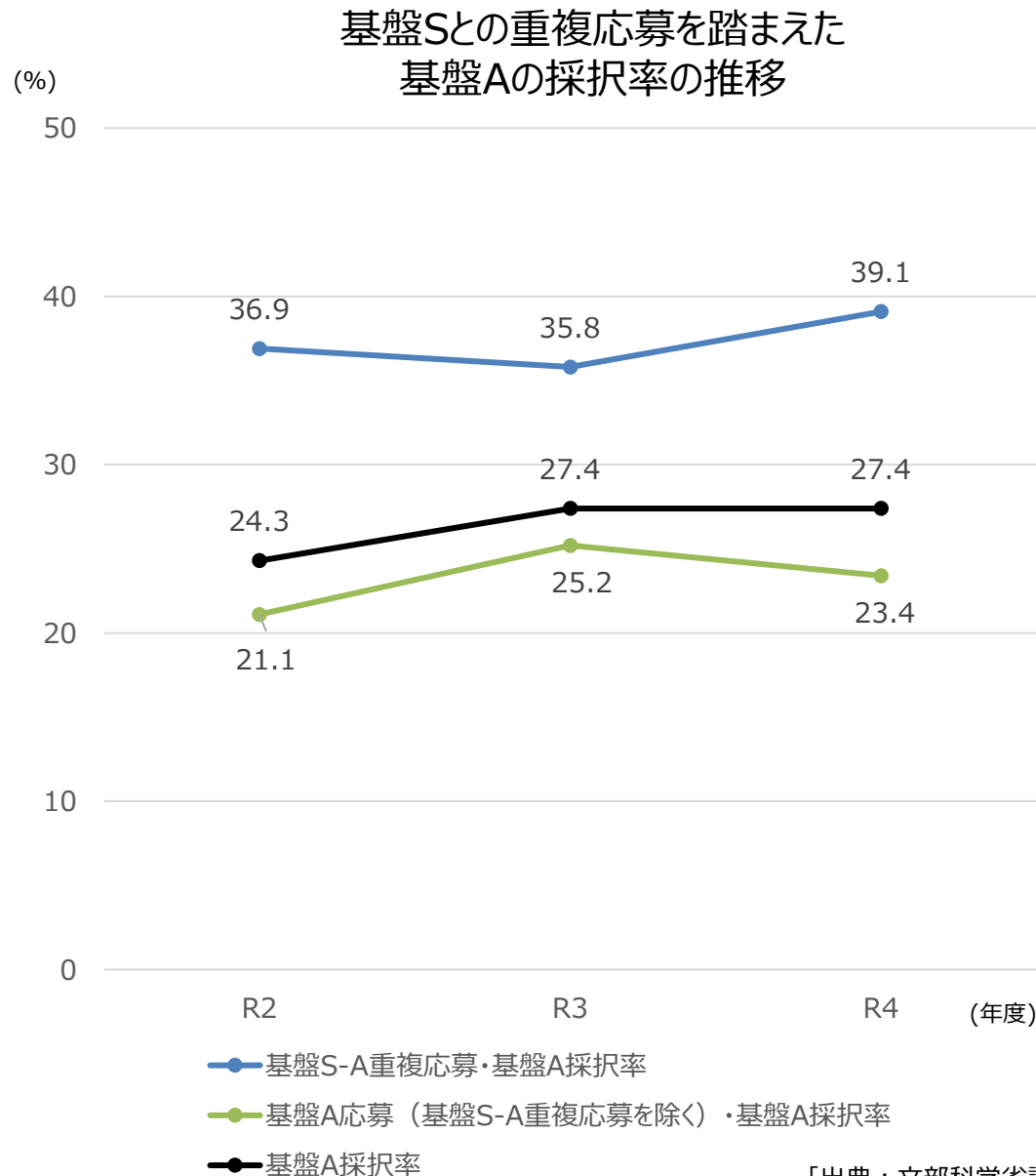
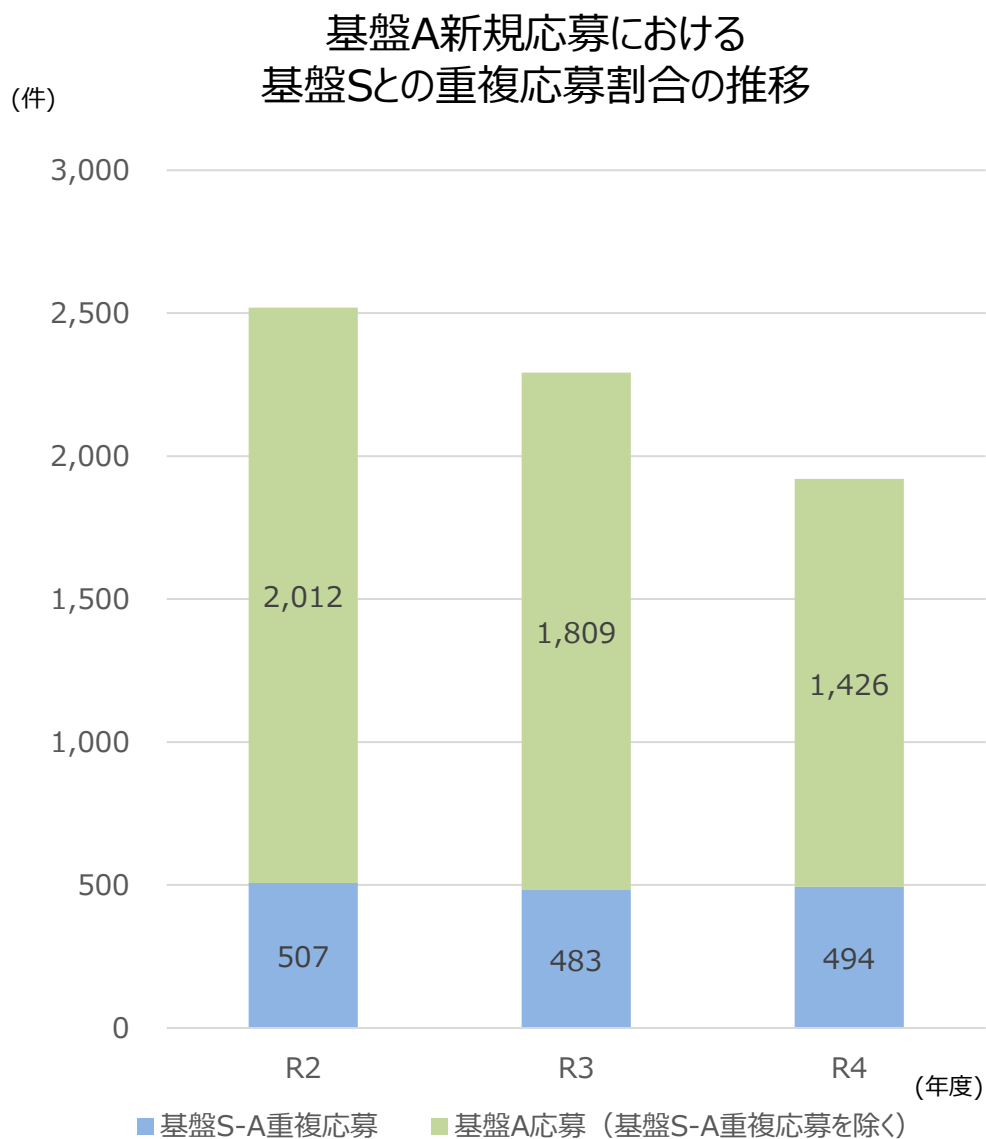


応募件数（全体）	86,692	96,798	87,158
研究課題名が英文である割合 [%]	1.1	2.2	2.6

※e-Radでは国籍情報を取得していないため、特別推進研究、基盤研究（S・A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究、研究活動スタート支援の種目を対象に、新規応募において研究課題名が全て英字で書かれているものを集計。

基盤S-Aの重複応募状況

○ 基盤Aの新規応募のうち、約2～3割が基盤Sとの重複応募であり、基盤S-Aの重複応募の場合において、基盤Aの採択率は、重複応募していない場合に比べ、10ポイント以上高い。



最終年度前年度応募の状況（重複応募制限の特例）

科研費制度では、基盤研究種目群と若手研究について、研究の進展を踏まえ、研究計画を再構築することを希望する場合には、「研究計画最終年度前年度に応募」として、応募を認めている。
 （研究計画の最終年度の前年度に応募することができるため、採択されれば研究費の切れ目がなく研究継続を可能としている。）

研究計画最終年度前年度に応募が可能な継続研究課題	新たに応募することができる研究種目
特別推進研究の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S・A・B・C）
基盤研究（S・A・B・C）の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題 （応募区分「特設分野研究」を除く。）	特別推進研究 基盤研究（S・A・B・C）
若手研究の研究課題のうち、研究期間が4年以上の研究課題	基盤研究（S・A・B・C）
若手研究（A・B）の研究課題のうち、研究期間が4年の研究課題	基盤研究（S・A・B・C）
若手研究、若手研究（A・B）の研究課題のうち、研究期間が3年の研究課題	基盤研究（S・A・B）

○ 「経済財政運営と改革の基本方針2023」、「統合イノベーション戦略2023」等の政策文書を踏まえ、以下の事項を中心とした必要な予算の確保・充実に努めるとともに、中長期的な制度改善の議論を進める。

<若手・子育て世代の研究者への支援強化>

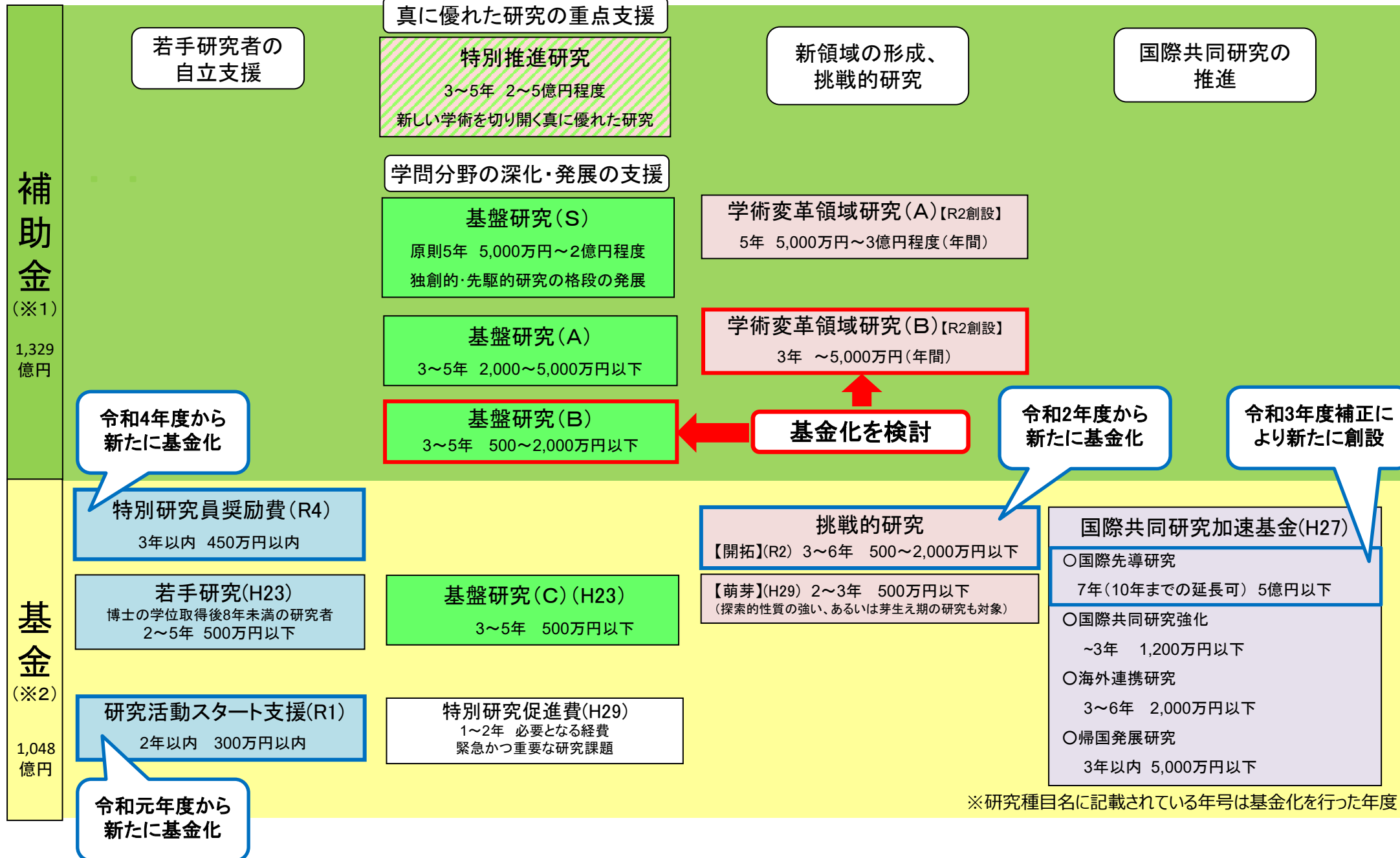
○ 若手・子育て世代の研究者を含む多様性の高い研究チームが、より挑戦的・独創的な研究に取り組める環境を整備するため、研究の進捗に応じた研究費の柔軟な使用により研究の質を抜本的に高める基金化を推進する。

○ 研究者コミュニティの持続的発展や男女共同参画の推進等に向けて、若手・子育て世代の研究者の研究活動のスタートを支援する「若手研究」、「研究活動スタート支援」の応募要件の緩和や、「研究活動スタート支援」の採択率等の向上による支援の拡充を図る。

<国際的な研究活動の推進>

○ 国際頭脳循環を加速するため、令和3年度補正予算により創設した「国際先導研究」の着実な実施や、基金化等による制度改善により、ボトムアップ型の国際共同研究を推進する。

科研費の主な研究種目の補助金と基金の区別【令和5年度予算】



※1 補助金においても、前倒し使用や一定要件を満たす場合の次年度使用を可能とする調整金を導入。(H25より)

※2 (独)日本学術振興会に基金(学術研究助成基金)を創設し、研究費の複数年度にわたる使用を可能としている(H23より)

科研費の基金化による効果

【自由で斬新な研究への挑戦】

- 科研費の対象は、新しい原理や学理の発見・追求等のために行われる理論的・実験的研究が多く、計画どおりに進まないことや逆に計画よりも研究が進むことも多い。
- そのため、単年度の補助金制度の硬直的な予算執行ではなく、基金制度による柔軟な研究費の執行を可能にし、**挑戦的で斬新な研究を後押し**。

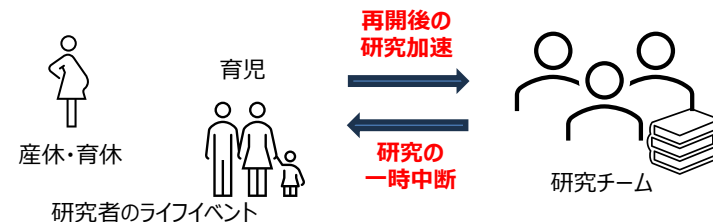
【研究計画のイメージ】

・基金制度では総額の中で柔軟な研究費の使用が可能。



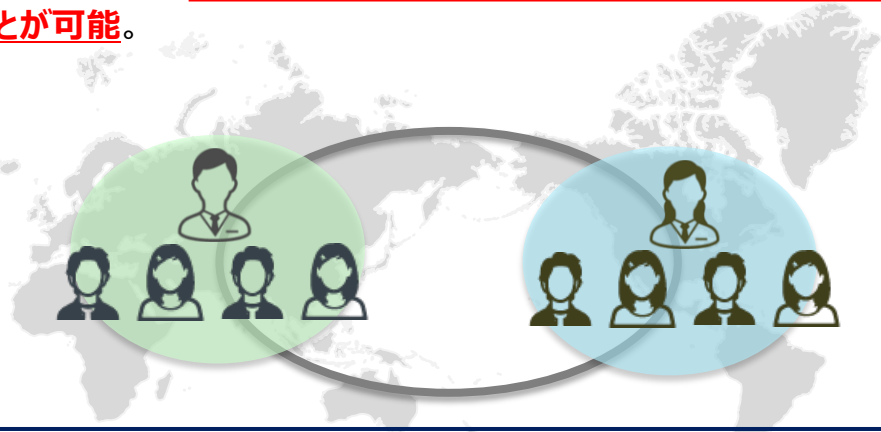
【研究とライフイベントの両立】

- 補助金制度では、**研究費の繰越は原則として2度繰り越すことができない**ことや研究費の予算が1年分しか確保されていないため、研究費の前倒し使用などへの対応が困難。また、出産、育児等を理由として、繰越はできない。
- 基金制度では、結婚、妊娠、出産、育児などのライフイベントにあたり、**研究の一時的な中断や研究再開後の研究の加速**などに必要な研究費の柔軟な対応が可能。



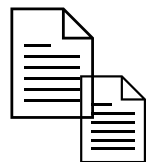
【国際共同研究の進展】

- 我が国は、国際共著論文数の少なさが課題として指摘されているが、日本の会計年度（4月～3月）と諸外国の会計年度（暦年が多い）との違いや単年度の予算制度が国際共同研究の障壁の一因。
- 基金制度では、**会計年度の制約によらず、国際共同研究を実施することが可能**。



【研究時間の確保】

- 補助金制度では必要な毎年5,000件以上の繰越申請手続き等が、基金制度では不要となり、**研究者の研究時間の確保や研究機関の事務的負担の軽減に貢献**。
- ✓繰越申請書類の提出が不要
研究者→研究機関→JSPS→文科省→財務省で申請内容の確認作業。
- ✓研究費の返還・再交付が不要
年度末に研究費を国庫への返還、次年度に再交付されるため、年度末・年度初めには研究が停滞。



研究種目別の繰越件数・金額（令和4年度）

研究種目	令和4年度	
	繰越件数	金額(百万円)
特別推進研究	34	1,003
新学術領域研究	205	760
学術変革領域研究	365	1,524
基盤研究(S)	171	1,930
基盤研究(A)	699	2,605
基盤研究(B)	3081	5,679
その他	760	405
合計	5,315	13,906

男女共同参画推進に向けた科研費における応募要件の緩和（案）

- 科研費応募資格者の年齢構成は高齢化しつつあり、また、我が国の女性研究者数の割合は諸外国と比較して低い状況。研究者コミュニティの持続的発展や男女共同参画等が尊重される社会実現のためにも、若手・子育て世代の研究者がより積極的に研究に復帰・参画できる環境を整備することが急務。
- 科研費の「研究活動スタート支援」、「若手研究」の応募要件においては、現在、産前・産後の休暇、育児休業期間への配慮はされているものの、育休からの復帰後に研究と育児の両立を目指す研究者への配慮はなされていない。
- 「研究活動スタート支援」及び「若手研究」について、若手・子育て世代の研究者にとって研究と育児の両立が可能となるようライフイベントに配慮した制度改善を行うことで研究者を幅広くエンカレッジしつつ、研究力の向上を目指す。



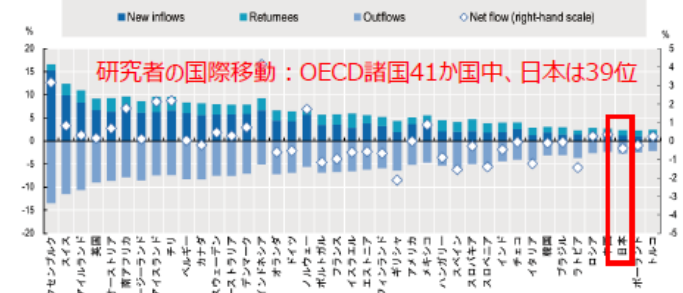
これまでの産前・産後の休暇、育児休業の期間だけでなく、
「未就学児の養育期間」を新たに配慮期間として追加しつつ、採択件数の向上を図る。

【応募要件の変更案】

	研究活動スタート支援【応募要件B】	若手研究
現行	<p>令和●(202●)年度に産前産後の休暇又は育児休業を取得していたため、文部科学省及び日本学術振興会が公募を行う以下の研究種目(※)に応募していない者</p> <p>(※)「特別推進研究」、「学術変革領域研究」、「基盤研究」、「挑戦的研究」及び「若手研究」</p>	<p>令和●(202●)年4月1日現在で博士の学位を取得後8年未満の研究(※)</p> <p>(※) 令和●(202●)年4月1日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。</p>
修正案	<p>令和●(202●)年度に産前産後の休暇を取得又は未就学児を養育(※1)していたため、文部科学省及び日本学術振興会が公募を行う以下の研究種目(※2)に応募していない者</p> <p>(※1) 育児休業を取得している期間も含まれます。 (※2)「特別推進研究」、「学術変革領域研究」、「基盤研究」、「挑戦的研究」及び「若手研究」</p>	<p>令和●(202●)年4月1日現在で博士の学位を取得後8年未満の研究者(※)</p> <p>(※) 以下の者も対象とする。 ・令和●(202●)年4月1日までに博士の学位を取得見込みの者 ・博士の学位を取得後に産前産後の休暇を取得又は未就学児を養育していた場合は、当該期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者</p>

背景・課題

- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行や近年の国際情勢、世界秩序の再編等により予測困難な状況に直面する中、我が国にとって先端研究の国際ネットワーク強化が喫緊の課題となっている。
- 我が国の研究力を強化するには世界最先端の研究現場に合流し、**トップレベル研究チームによる国際共同研究と若手の長期海外派遣を強力に推進することが急務**である。



事業内容

科研費「国際先導研究」により、高い研究実績と国際ネットワークを有するトップレベル研究者が率いる優秀な研究チームによる、海外トップレベル研究チームとの国際共同研究を強力に支援する。さらに、若手（ポストドクター・大学院生）の参画を要件とし、**長期の海外派遣・交流や自立支援**を行うことにより、**世界を舞台に戦う優秀な若手研究者の育成を推進**。

科研費「国際先導研究」による支援

研究種目概要

研究期間 : 7年（最大10年まで延長可）
研究費総額 : 最大5億円（直接経費・基金）
採択予定件数 : 約15件

研究代表者の要件

国際共同研究の高い実績を有するPI
- 5年以内のTop10%国際共著論文実績
- スポークスパーソン経験 など



トップレベル研究チーム
※約20~40名の研究チームを想定
(PD・院生が約8割)

審査体制

- ・海外レフェリーを含む、国際共同研究の経験・識見をもつ審査チーム
- ・学術専門性だけでなく、先進性・将来性・優位性も評価
- ・当該研究への研究機関による支援も審査の対象

質の高い国際共著論文の産出



リスクを恐れず挑戦し続ける創発研究者



ハイレベルな国際共同研究の推進

世界を舞台に戦う優秀な若手研究者の育成



若手育成の経費を別枠で措置
- PD・院生の人数に応じた研究環境整備費
- テニユアで採用された若手の研究費

PD・院生のカウンターパートの研究チームへの長期（2~3年）の海外派遣・交流／自立支援

○海外派遣人数（事業全体）
長期：約300人（15件×20人）
短期：約2,100人（15件×のべ140人）

PDはPIの下で自らテーマを設定しメンターの支援を受け研究に従事

資金の分担を前提



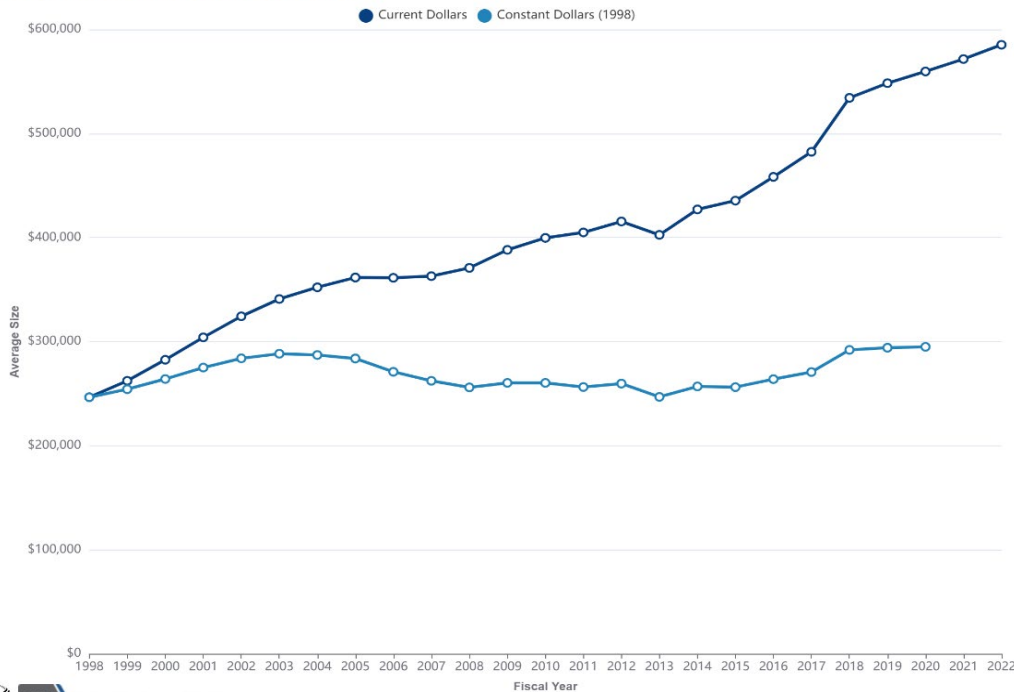
高い研究実績を有するPIが率いる海外トップレベル研究チーム
(複数の研究チームとの共同研究も可)

(参考) 米国 国立衛生研究所 (NIH) における研究グラント (R01)

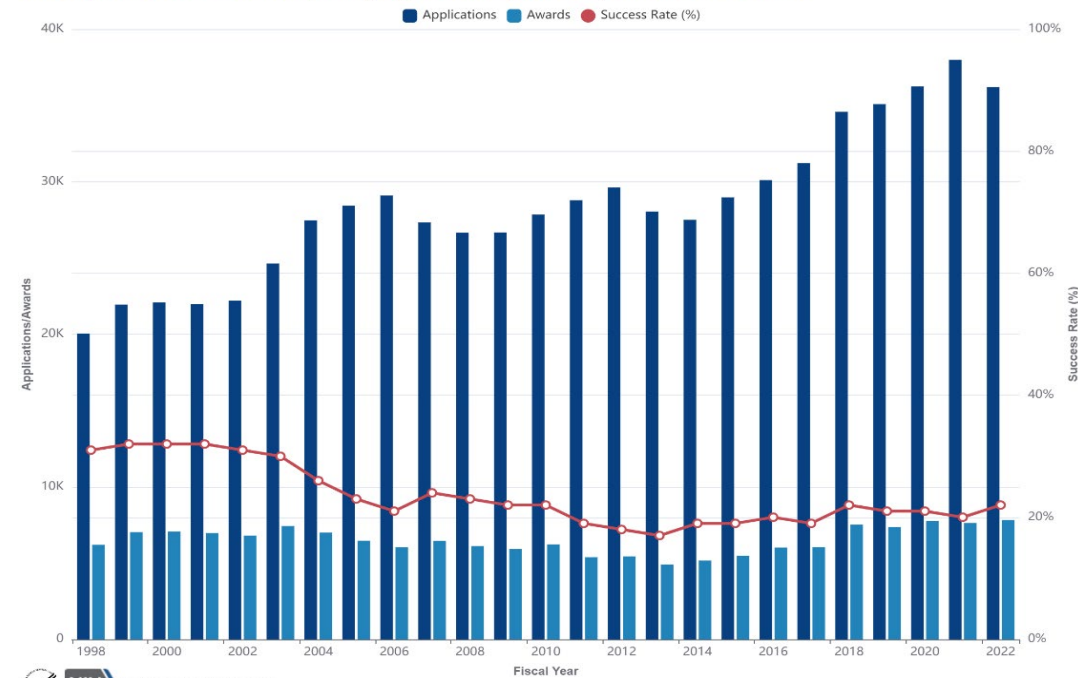
ONIH Research Project Grant Program (R01)

- NIHの最も一般的なグラントとして幅広い生物医学研究を支援。
- 支援期間は、3~5年間で、申請する金額に上限はない。
- プロジェクト期間の追加について、申請が可能。
- スタディセクションにおける評価基準：重要性 (Significance)、研究者 (Investigator(s))、イノベーション (Innovation)、アプローチ (Approach)、環境 (Environment)、全体にわたるインパクト (Overall Impact)
- 平均的な配分額：\$585,307、採択率：22% ※Fiscal year 2022, R01-Equivalent Grants
- (例) NIAIDにおけるR01の平均単年度直接経費：\$374,391 ※Fiscal year 2021, NIAID R01 award
- 支出可能経費：研究責任者・主要人員・その他必要不可欠な人員の給与およびFRINGE BENEFIT、設備および備品、コンサルタント費用、改築・改装費、出版および雑費、契約サービス、コンソーシアム費用、施設管理費 (間接費)、旅費

R01-Equivalent Grants: Average Size



R01-Equivalent Grants: Competing Applications, Awards, and Success Rates



(注) R01-equivalent grants are defined as activity codes DP1, DP2, DP5, R01, R37, R56, RF1, RL1, U01 and R35 from select NIGMS and NHGRI program announcements (PAs).

出典：海外のファンディングエージェンシーにおける審査・評価システムの最近の動向, JSPS-CSIA REPORT 2020(2)
 主要国のファンディングエージェンシーにおける学際的研究の推進方策 (令和2年3月刊行), JSPS-CSIA REPORT 2019(2)

<https://report.nih.gov/nihdatabook/>

"What is a normal budget request for an investigator-initiated R01 award?" | NIH: National Institute of Allergy and Infectious Diseases

基盤研究 (S・A) の採択率はほぼ横ばい、充足率 (配分額/応募額) は低下傾向。

基盤研究 (S) (補助金)

対 象 : 独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額 : 原則5年間 5,000万円以上 2億円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	585	658	661	654	645	704	659	685	649	649
採択件数 (件)	87	87	87	95	81	80	81	80	80	80
採択率	14.9%	13.2%	13.2%	14.5%	12.6%	11.4%	12.3%	11.7%	12.3%	12.3%
充足率	86.3%	73.5%	76.7%	84.1%	84.7%	79.5%	81.7%	81.0%	81.0%	80.9%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	41,853	36,862	37,886	37,235	41,274	40,998	38,454	40,123	38,684	40,418

基盤研究 (A) (補助金)

対 象 : 独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額 : 3~5年間 2,000万円以上 5,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	2,300	2,544	2,585	2,601	2,567	2,454	2,412	2,519	2,292	1,920
採択件数 (件)	541	583	597	634	636	605	605	611	628	526
採択率	23.5%	22.9%	23.1%	24.4%	24.8%	24.7%	25.1%	24.3%	27.4%	27.4%
充足率	74.5%	68.0%	70.0%	72.1%	71.4%	72.9%	74.7%	74.3%	69.6%	70.0%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	12,545	11,417	11,509	11,513	11,254	12,083	11,763	11,566	11,091	11,354

(参考) 過去10年の実績推移 — 基盤研究 (B・C) —

基盤研究 (B) については、若手研究 (A) の平成30年度から公募停止、基盤研究 (B) に若手研究者への優先採択枠を設ける制度変更により、採択率は上昇。基盤研究 (C) は応募件数の大幅増もあり、採択率は低下し、充足率は大幅に低下。

基盤研究 (B) (補助金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：3～5年間 500万円以上 2,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	10,205	10,863	11,396	11,369	11,041	11,577	11,396	12,198	11,320	11,552
採択件数 (件)	2,523	2,580	2,638	2,813	2,729	2,965	3,327	3,393	3,396	3,403
採択率	24.7%	23.8%	23.1%	24.7%	24.7%	25.6%	29.2%	27.8%	30.0%	29.5%
充足率	73.8%	67.0%	69.2%	71.0%	71.4%	71.1%	71.2%	72.7%	71.3%	71.5%
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	5,311	4,824	4,958	5,134	5,041	5,116	5,068	5,057	4,996	5,014

(注1) 平成27年度交付分から500万円以下を基金とする「一部基金」を取りやめ。

(注2) 令和2年度公募をもって若手研究者の応募課題を優先的に採択できる仕組みを終了。

基盤研究 (C) (基金)

対 象：独創的、先駆的な研究を格段に発展させる、一人又は複数の研究者で組織する研究計画

応募総額：3～5年間 500万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	33,871	35,329	36,843	38,049	40,486	43,587	45,758	44,948	45,496	45,434
採択件数 (件)	10,127	10,549	10,975	11,392	11,983	12,175	12,918	12,775	12,817	12,952
採択率	29.9%	29.9%	29.8%	29.9%	29.6%	27.9%	28.2%	28.4%	28.2%	28.5%
充足率	77.6%	75.6%	73.9%	72.4%	71.4%	67.7%	67.0%	66.7%	64.1%	64.3%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	3,545	3,473	3,416	3,346	3,299	3,115	3,087	3,069	2,941	2,950

(参考) 過去10年の実績推移 —若手研究 (A)、若手研究—

若手研究は、平成30年度公募から応募要件変更の経過措置（博士号未取得者も応募を認める）について、令和2年度公募に終了した影響もあり、応募件数が減少。若手研究者支援の拡充もあり、採択率・充足率は上昇。

若手研究 (A) (補助金)

対象：39歳以下の研究者が一人で行う研究計画であって、将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画
応募総額：2～4年間 500万円以上 3,000万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	1,779	1,810	1,736	1,721	1,837	—	—	—	—	—
採択件数 (件)	394	409	389	423	433	—	—	—	—	—
採択率	22.1%	22.6%	22.4%	24.6%	23.6%	—	—	—	—	—
充足率	69.0%	64.7%	63.8%	67.6%	67.3%	—	—	—	—	—
1 課題当たりの単年度における平均配分額 (千円)	7,753	7,133	7,300	7,563	7,570	—	—	—	—	—

(注1) 平成30年度公募から新規公募停止し、基盤研究 (B) において若手研究者の応募課題を優先的に採択できる仕組みを導入。

若手研究 (基金)

対象：博士の学位を取得後8年未満の研究者 (注2) が一人で行う将来の発展が期待できる優れた着想を持つ研究計画
応募総額：2～5年間 500万円以下

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	20,330	19,683	19,272	18,996	19,271	20,369	19,590	18,708	13,163	13,142
採択件数 (件)	6,079	5,876	5,771	5,716	5,817	6,256	7,831	7,496	5,294	5,293
採択率	29.9%	29.9%	29.9%	30.1%	30.2%	30.7%	40.0%	40.1%	40.2%	40.3%
充足率	64.9%	60.1%	62.4%	61.9%	64.9%	64.2%	64.8%	64.6%	71.2%	70.8%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	2,846	2,664	2,789	2,772	2,912	2,898	2,889	2,890	3,228	3,231

(注1) 平成30年度公募から「若手研究 (B)」の名称を「若手研究」に変更。応募要件を従来の39歳以下の研究者から (注2) に変更。

(注2) 博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。

(注3) 令和2年度公募をもって「若手研究」における39歳以下の博士号未取得者の応募を認める経過措置を終了。

(注4) 令和3年度公募から、若手研究者が継続的・安定的に研究を遂行できるよう、研究期間を「2～4年間」から「2年～5年間」に延伸。

[出典：文部科学省調べ]

(参考) 過去10年の実績推移 — 挑戦的研究 (開拓・萌芽) —

平成29年度公募から挑戦的萌芽研究を挑戦的研究 (開拓・萌芽) に見直し、挑戦的な研究の実行が担保されるよう、応募額を最大限尊重する予算配分方針に変更。

挑戦的研究 (開拓・萌芽)

対象：一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究計画。なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究計画も対象とする

内容：(開拓) 3～6年間 500万円以上 2,000万円以下 (萌芽) 2～3年間 500万円以下

挑戦的研究 (開拓) (補助金→令和2年度以降：基金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	1,116	823	699	1,607	1,564	1,365
採択件数 (件)	—	—	—	—	94	82	81	148	178	183
採択率	—	—	—	—	8.4%	10.0%	11.6%	9.2%	11.4%	13.4%
充足率	—	—	—	—	99.6%	99.6%	99.7%	99.6%	99.6%	99.5%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	19,406	19,413	19,511	19,220	19,676	19,693

挑戦的研究 (萌芽) (基金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	13,865	15,366	16,757	17,895	14,491	11,811	10,815	9,722	9,963	9,391
採択件数 (件)	3,582	3,950	3,952	3,613	1,586	1,426	1,388	1,241	1,570	1,505
採択率	25.8%	25.7%	23.6%	20.2%	10.9%	12.1%	12.8%	12.8%	15.8%	16.0%
充足率	59.9%	58.3%	57.9%	55.1%	98.6%	96.8%	98.7%	98.7%	98.8%	98.8%
1 課題あたりの全研究期間における平均配分額 (千円)	2,816	2,755	2,735	2,620	4,781	4,712	4,848	4,827	4,832	4,857

(注1) 平成25～28年度は「挑戦的萌芽研究」の実績を記載。

(参考) 挑戦的萌芽研究

目的：1人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究

内容：1～3年間 500万円以下

令和2年度公募から「新学術領域研究」を発展的に見直し、「学術変革領域研究 (A)」及び「学術変革領域研究 (B)」を創設。

学術変革領域研究 (A)

目的：多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究

対象：学問分野に新たな変革や転換をもたらし、既存の学問分野の枠に収まらない振興・融合領域の創生を目指す研究領域、又は当該分野の強い先端的な部分の発展・飛躍的な展開を目指す研究領域であって、多様な研究グループによる有機的な連携の下に、新たな視点や手法による共同研究等の推進により、革新的・独創的な学術研究の発展が期待されるもので、次の1)～3)の全ての要件該当する場合は4)の要件を満たすもの(※)
(※) 1)～4)の要件は省略。

内容：5年間 1研究領域単年度当たり5,000万円以上3億円まで(真に必要な場合は3億円を超える応募も可能)
・次代の学術の担い手となる研究者(45歳以下の研究者)を研究代表者とする「総括班以外の計画研究」が2課題以上含まれる領域構成。
・1年目と3年目それぞれの採択目安件数が15件を上回ること
・公募研究に係る経費の増額が研究領域全体の研究経費の15%を上回ること

計画研究 (補助金)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	1,956	1,680	1,503
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	173	149	112
採択率	—	—	—	—	—	—	—	8.8%	8.9%	7.5%
1課題あたりの単年度における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	92.9%	74.7%	92.5%
1課題あたりの単年度における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	23,124	22,140	26,128

(参考) 過去10年の実績推移 ー学術変革領域研究 (A) 及び (B)

学術変革領域研究 (A) 公募研究 (補助金)

1人の研究者が、当該研究領域の研究をより一層推進するために「計画研究」と連携しつつ行う研究

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	1,420	1,055
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	—	348	303
採択率	—	—	—	—	—	—	—	—	24.5%	28.7%
1 課題あたりの単年度 における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	—	98.3%	92.9%
1 課題あたりの単年度 における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	—	3,228	2,990

学術変革領域研究 (B) 計画研究 (補助金)

目的：次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（3～4グループ程度）が提案する研究領域において、より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、将来の学術変革領域研究 (A) への展開などが期待される研究

内容：3年間 1 研究領域単年度当たり 5,000万円以下とする

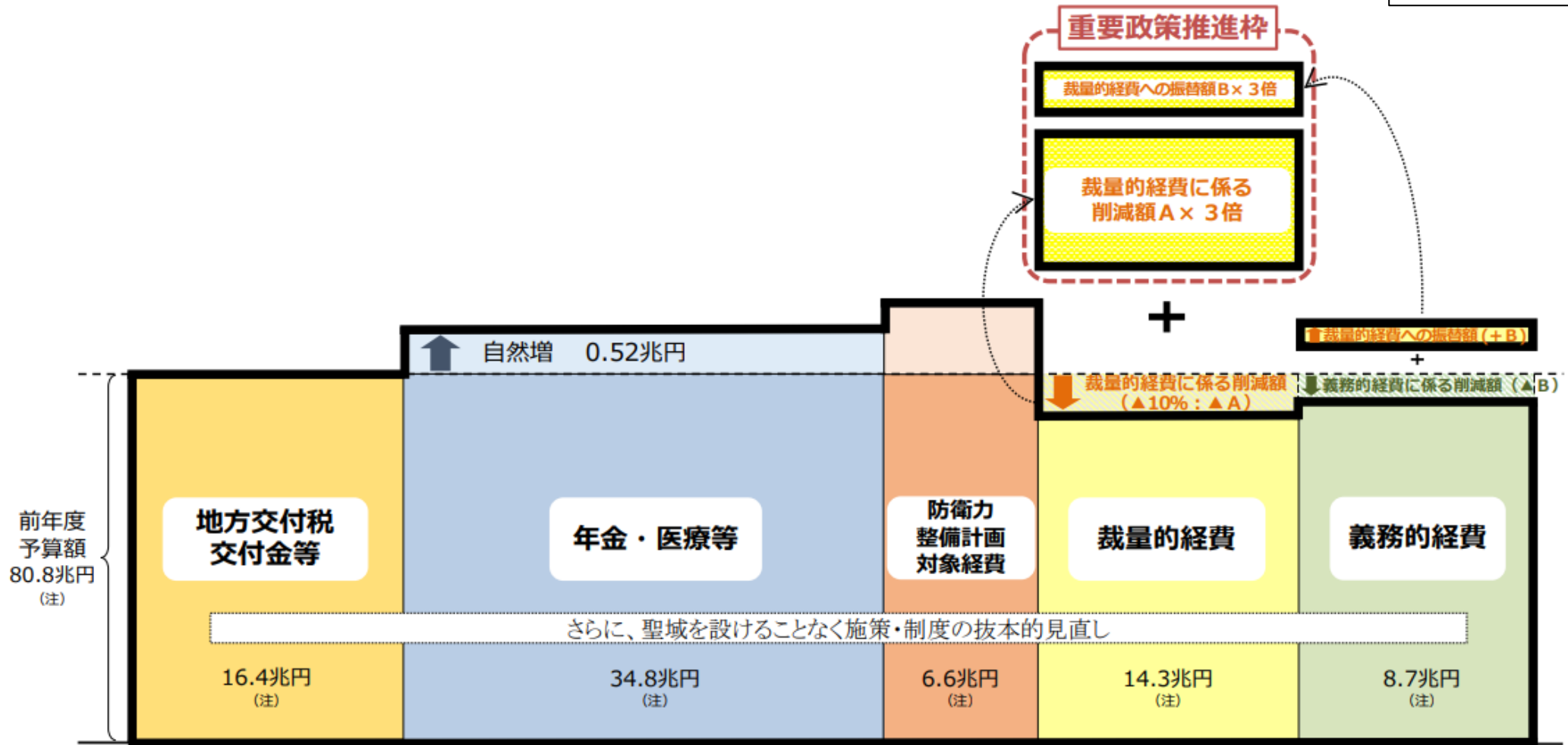
- ・領域代表者は、次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）であることを必須。
- ・次代の学術の担い手となる研究者（45歳以下の研究者）を研究代表者とする「総括班以外の計画研究」が2課題以上含まれる領域構成。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
応募件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	2,939	1,630	875
採択件数 (件)	—	—	—	—	—	—	—	91	112	90
採択率	—	—	—	—	—	—	—	3.1%	6.9%	10.3%
1 課題あたりの単年度 における平均充足率	—	—	—	—	—	—	—	85.2%	70.0%	68.6%
1 課題あたりの単年度 における平均配分額 (千円)	—	—	—	—	—	—	—	8,385	7,493	7,581

(参考) 令和6年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について (案)

令和6年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について (案)

令和5年7月25日経済財政諮問会議(令和5年第11回)会議資料より抜粋



※ 防衛力整備計画対象経費については、「防衛力整備計画」を踏まえ、所要の額を要求。地方交付税交付金等については、「新経済・財政再生計画」との整合性に留意しつつ要求。義務的経費については、経済センサス等に必要経費等の増減について加減算。

(注) 上記の計数は前年度予算額であり、防衛力強化資金への繰入れ、新型コロナウイルス感染症及び原油価格・物価高騰対策予備費並びにウクライナ情勢経済緊急対応予備費を除いたもの。当該経費を含めると、前年度予算額の総額は89.1兆円、義務的経費は17.1兆円。

予算編成過程における検討事項

- ✓ 物価高騰対策等を含めた重要政策については、必要に応じて、「重要政策推進枠」や事項のみの要求も含め、適切に要求・要望を行い、予算編成過程において検討。
- ✓ 「こども未来戦略方針」で示された「こども・子育て支援加速化プラン」の内容の具体化の取扱いについては、予算編成過程において検討。 等